

I 平成25年度事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

当財団は、平成24年度から平成26年度まで、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の管理運営に係る指定管理者の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施してきた。

平成25年度は、演劇部門において、看板事業でもある「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や「さいたまネクスト・シアター」による公演のほか、「さいたまゴールド・シアター」がフランス・パリでの公演を成功させるなど、国内外に向け、多彩な事業を展開した。

舞踊部門においては、ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団など、世界的に注目を集めるアーティストによる公演を行ったほか、次世代を担う中堅、若手ダンサーによる新作を制作・上演するなど、当劇場でしか見られない独自性をもったプログラムを数多く上演した。

音楽部門においては、世界屈指のアーティストや若手実力派ピアニストによるリサイタル、交響楽団による公演など、多彩なジャンルの公演を提供した。また、大人から子供まで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシックや無料コンサートの開催、音楽を小・中学校の子供たちへ届けるアウトリーチ事業を実施するなど、多種多様な音楽ニーズに応えた。

その他、小学生とその保護者を対象として彩の国さいたま芸術劇場内の施設や舞台機構等を実際に見て触れることができる「劇場体験ツアー」を行うなど、地域の舞台芸術に対する関心・理解を深めるための事業に引き続き取り組んだ。

また、施設利用に関しては、いずれの館においても、安心・安全に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したり、財団ホームページ更新に伴い、利用者への広報を充実したりするなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

ア 自主企画公演等及び国内外との交流（63事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館、熊谷会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場（54事業）

a 演劇部門

蜷川幸雄芸術監督の演出による多彩なラインナップを展開した。

当劇場の看板である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、4月に第27弾として英国史劇「ヘンリー四世」を、9月には第28弾「ヴェニスの商人」を上演した。

平均年齢74歳の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」は、5月に第6回公演「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」を上演した。なお、本公演は、初の海外公演としてフランス・パリでの公演、国内ツアーとして横浜市及び熊谷市でも公演を行った。

10月には、平成21年に当劇場で初演され、絶賛を博した井上ひさしの戯曲「ムサシ」の再々演を共催により上演し、より幅広い観客層の開拓を図った。

若手俳優の育成を目的とした「さいたまネクスト・シアター」は、11月に「ザ・ファクトリー4」として、「ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章－詩・評論・小説・戯曲より－」を上演したほか、2月には5回目となる本公演「2014年・蒼白の少年少女たちによる『カリギュラ』」を上演した。

このほか、9月にカルロ・コロディ原作の童話「ピノキオ」を宮本亜門脚色、演出による親子で楽しめる音楽劇として上演し、子供の頃から演劇に親しむきっかけをつくった。

事業名	実施時期	会場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾「ヘンリー四世」	4月	大ホール
さいたまゴールド・シアター第6回公演「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」	5月	大稽古場ほか
彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾「ヴェニスの商人」	9月	大ホール
「ピノキオ」	9月	小ホール

「ムサシ ロンドン・NYバージョン」	10月	大ホール
「ザ・ファクトリー4」	11月	大稽古場ほか
さいたまネクスト・シアター 第5回公演 「2014年・蒼白の少年少女たちによる『カリギュラ』」	2月	インサイド・シアター

b 舞踊部門

世界的に活躍する振付家・演出家の最新作、及び国内外で活躍するアーティストによる、身体表現の可能性を探る多彩な作品を提供した。

海外からは、フランスの世界的振付家マギー・マランの「Salvesーサルヴズ」を上演するとともに、ヨーロッパのコンテンポラリーダンス界を代表する舞踊家・振付家マチルド・モニエの作品をアンスティチュ・フランセ日本と共催で上演するなど、当劇場でしか見られない独自性をもったプログラムを提供した。

3月には、舞踊界のカリスマ的振付家・演出家であったピナ・バウシュが芸術監督を務めたヴッパタール舞踊団を10年ぶりに招聘した。

国内からは、近藤良平が率いる、生演奏、人形劇、映像、コントを展開する人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による第7回目の埼玉スペシャル公演を上演した。

また、dancetoday2013を開催して、次世代を担う中堅、若手ダンサーによる新作を制作・上演した。

さらに、ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団の現役ダンサーである瀬山亜津咲氏の指導により、さいたまゴールド・シアターが平成24年度から取り組み始めたダンスを「ザ・ファクトリー3」として上演した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ「アポロ」	5月	大ホール
マギー・マラン「Salves」	6月	大ホール
「ザ・ファクトリー3」	8月	大練習室
dancetoday 2013	10月	小ホール
マチルド・モニエ公演	11月	大ホール
ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団公演	3月	大ホール

c 音楽部門

世界屈指のアーティストや若手実力派ピアニストによるリサイタル、古楽アンサンブルや声楽公演など、多彩なジャンルの公演を実施した。

若手のなかでも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」は、「アンコール！」公演（シリーズの過去出演者が再登場する公演）として、平成24年度に予定していたが出演者の急病により公演延期となった第1回を含めての2公演と併せて、5公演を実施した。

また、世界のトップオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる木管五重奏のコンサート、世界の音楽家たちから尊敬を集めるマレイ・ペライアによるピアノ・リサイタル、「ヴァイオリン界の新女王」とも称されるイザベル・ファウストを迎えての演奏会など、トップ・アーティストによる充実した内容のプログラムも積極的に展開した。

さらに、平成25年に生誕200年を迎えたオペラの大作曲家ジュゼッペ・ヴェルディを記念して、ヴェルディ歌唱が評価されている実力派の歌手によるガラ・コンサートを開催し、新たな聴衆を獲得した。

なお、注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって展開する劇場オリジナル企画「現在（いま）」シリーズは、村治佳織の第2回目公演を予定していたが、出演者の病気療養による無期限の演奏活動休止のため公演中止となった。

一方、気軽に音楽に触れられる機会を広く提供するためにポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサートを継続して実施した。加えて、オルガンを通じての音楽の普及啓発を主目的に、劇場所有楽器の弾き込みを兼ねた「みんなのオルガン講座」も継続して実施した。

若い世代に芸術の体験機会を提供する、小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施した。加えて、「ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団」公演時には、楽器を演奏する学生を対象とした楽器別クリニックを実施した。

事業名	実施時期	会場
ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.21～Vol.23)	4月～12月	音楽ホール
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団	9月	音楽ホール

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル	10月	音楽ホール
イザベル・ファウスト バッハ無伴奏ヴァイオリン作品全曲演奏会	11月	音楽ホール
ヴェルディ・ガラ・コンサート	11月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》	12月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！ (Vol.1～Vol.2)	12月・3月	音楽ホール
【中止】村治佳織の現在(いま) Vol.2	—	—
光の庭プロムナード・コンサート	5月～3月	情報プラザ
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	8月	情報プラザ
みんなのオルガン講座	6月～3月	大練習室他
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団メンバーによるクリニック	9月	音楽ホールほか
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	10月～2月	県内小・中学校

d その他

好評の「彩の国さいたま寄席」（年4回実施）を引き続き実施した。また、「劇場体験ツアー」など、幅広い世代、層の方々に親しみやすい事業を実施した。

さらに、舞台技術に関し、県内高等学校の生徒を対象とした研修や公立文化施設の職員を対象とした講座を実施し、様々な舞台技術関係者の育成を図るとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップの積極的な受け入れなどを通じて、地域との連携を深めた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他
劇場体験ツアー	12月	大ホール
舞台技術講座	8月・2月	小ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場

(イ) 埼玉会館（6事業）

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として、毎年好評を博しているNHK交響楽団公演、及び新日本フィルハーモニー交響楽団を迎えてのニューイヤー・コンサートを実施した。

また、大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシック、平日昼間のランチタイム・コンサートも引き続き開催し、音楽の鑑賞機会を親しみやすい形で広く提供するとともに、新たな鑑

賞者層を開拓した。これらの事業は地元商店街とのタイアップなど、より地域と密着した展開を図った。

事業名	実施時期	会場
秋山和慶(指揮) 伊藤恵(ピアノ) NHK交響楽団	10月	大ホール
埼玉会館ニューイヤークンサート 新日本フィルハーモニー交響楽団	1月	大ホール
埼玉会館ランチタイム・コンサート	6月~12月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストラランド！」	8月	大ホール

(ウ) 熊谷会館 (3事業)

熊谷地区の夏の恒例公演として定着している「松竹大歌舞伎」を実施した。

また、「熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド！」を実施し、家族揃って音楽の魅力を感じていただける機会を提供した。

さらに、好評の「熊谷会館バレエ・セミナー」を引き続き行うなど、県北地域の子供たちが本物の芸術に触れることのできる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
松竹大歌舞伎	7月	ホール
熊谷会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストラランド！」	8月	ホール
熊谷会館バレエ・セミナー	8月	ホール

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示、埼玉県立近代美術館との共催によるポスター・デザイン展を開催した。

また、熊谷市役所ロビーにて、さいたまゴールド・シアターに関する企画展示を行った。

a 細野晋司写真展 「知らない顔」

彩の国シェイクスピア・シリーズ『ヘンリー四世』の上演に合わせて、写真家細野晋司氏の写真集『知らない顔』の中から、蜷川幸雄芸

術監督が演出した舞台の出演者のポートレート写真を展示した。

b マギー・マラン 舞台写真展

10年振りの来日公演となったマギー・マランの舞台『Salves-サルヴズ』の上演に合わせて、これまでのマギー・マラン振付作品の舞台写真を展示した。

c さいたまゴールド・シアター展

初の海外公演からの凱旋公演となった熊谷市での公演を記念して、「さいたまゴールド・シアター」の軌跡を舞台写真とともに振り返る企画展示を、熊谷市の協力を得て、熊谷市役所1Fロビーで実施した。

d シェイクスピア・ポスター100選

彩の国シェイクスピア・シリーズ『ヴェニスの商人』の上演に合わせて、国内の様々な劇場で上演されたシェイクスピア演劇のポスターを展示した。

e 埼玉県立近代美術館ポスター・デザイン展

改修工事のため休館中の埼玉県立近代美術館との共催で、これまでの近代美術館の企画展ポスターの中から展覧会ポスターの代表作37点、近代美術館所蔵の椅子4脚を展示した。

f さいたまネクスト・シアター 舞台写真展

「2014年・蒼白の少年少女たちによる『カリギュラ』」の上演に合わせて、さいたまネクスト・シアターのこれまでの活動を舞台写真で紹介した。

g ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 舞台写真展

ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団『コンタクトホーフ』公演に合わせて、これまで日本で上演された同舞踊団の公演の舞台写真を展示した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を

発行した。

公演の見どころや公演の内容を、一般の読者により分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

- a 発行回数、部数 6回 各 13,000 部発行
- b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めたことにより、昨年度より 126 人の増員となった。「メンバーズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と会員価格とを設定し、財団のチケット販売戦略における基礎とすべく一般との差別化を図ることにより、チケットの販売促進を図った。

会員数 5,419 人（平成 26 年 3 月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進を積極的に行い、サポーター＝企業のブランドイメージの向上を目指せる広報展開を図りつつ、サポーター各社の協力を得て会員の拡大に努めたことにより、昨年度より 10 社増加した。

また、『ヴェニス商人』上演時にはサポーター鑑賞会及び懇談会を実施した。

サポーター会員数 100 社（者）（平成 26 年 3 月末現在）

ウ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術

劇場、埼玉会館及び熊谷会館の3館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえ、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携強化を図りながら、利用者の問い合わせや要望に対し、より適切かつ迅速に対応し、利用者サービスの向上に努めた。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン～彩の国さいたま芸術劇場2013年版～」を作成し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

財団ホームページの更新時に、施設利用専用ページを新規に開設した。これにより、施設利用者への各種案内が即時にできたり、ホール催物のチラシが掲載できたりするなど、利用者サービスの向上が図られた。

また、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 333,549人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1,080	746	69.1
けいこ場・練習室	3,732	3,468	92.9
計	4,812	4,214	87.6

イ 埼玉会館

埼玉会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

また、「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」と連携し、企画展を開

催するなど相乗効果の高い利用の促進を図った。

さらに、大正 15 年に創設された埼玉会館が歴史的にも建築的にも全国に誇れる価値を持つ施設である点を発信し、ブランド力の向上を図った。

財団ホームページの更新時にも「埼玉会館の歴史と建築」の専用ページを設けたほか、各種資料・情報を簡単に入手できるよう工夫し利用者の利便性を高めた。

一方で、電気・ガス料金の値上げに対応するため、利用に支障の生じない範囲で節電等にも努めるとともに、老朽化による利用サービス低下を避けるため、施設設備の修繕や備品の更新を計画的に実施している。

総来場者数 636,020人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	526	453	86.1
会議室	5,798	4,659	80.4
展示室	1,026	744	72.5
計	7,350	5,856	79.7

※平成 26 年 1 月 20 日～3 月 31 日は設備工事で大小ホールは利用がなかった。

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

ウ 熊谷会館

熊谷会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成 25 年度は、熊谷市が地域をあげて取り組んでいるクールシェアスポット（夏の節電対策として、ひとり一台のエアコンの使用をやめ、涼しい場所に集まって、みんなで夏を楽しく快適に過ごす取組）に登録し、市民の憩いの場として緑のカーテンの設置や休憩室の開放などを行い、地域活性化の一助を担った。

また、財団ホームページの更新に伴い、熊谷会館の貸館公演広報の充実に努めるとともに、会議室等の新規利用申込者に対し、ホームページを活用して説明するなど利用者サービスの向上に努めた。ホームページに対応できない方々に対しては丁寧な対面案内を行うことで、継続した利用をいただいている。

なお、老朽化によるサービス低下を避けるため、日常的な施設点検により不具合箇所の早期発見に努めるとともに耐用年数を考慮した計画的な修繕を実施している。

総来場者数 131,887人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	272	135	49.6
会議室	933	762	81.7
展示室	316	261	82.6
計	1,521	1,158	76.1

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館及び熊谷会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を管理運営した。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の施設内において、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を3回（5月、6月、3月）、評議員会を4回（6月、10月、12月、3月）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数 (平成26年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

(2) 職員数 (平成26年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
館 長	2	—	2	県派遣 2
部 長	1		1	
グループリーダー・課長	7	—	7	県派遣 2
主 査	15	—	15	県派遣 4
主 任	14	—	14	
主 事	8	—	8	
技 師	2	—	2	
専 門 員	1	1	2	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	6	6	
計	50	10	60	県派遣 8